

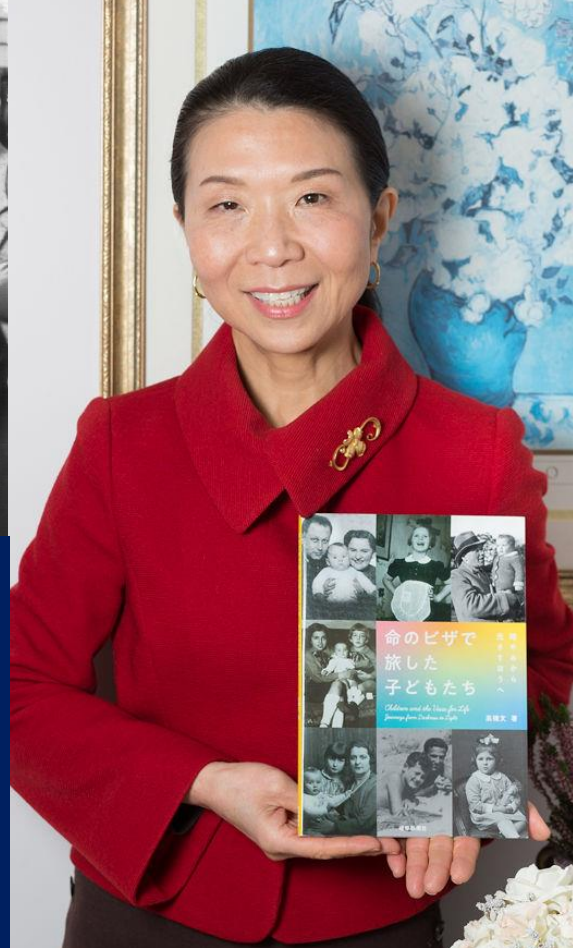
神戸ユダヤ難民研究会・公開セミナー



杉原ビザで神戸に来たユダヤ難民 1941年2月

「杉原ビザ」 受給者とは

迫りくる脅威から逃亡した人々の事情



著書『命のビザで旅した子どもたち』
を手にする高橋 文 氏

講師:高橋 文 氏 (フリーランス・ジャーナリスト/カナダ在住)

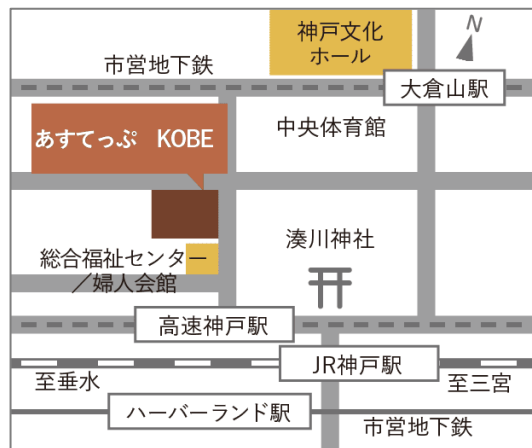
神戸を通過してカナダをはじめとする国々に落ち着いた「杉原ビザ」受給者やその子孫を取材し、多くの記事や書籍を執筆されている、カナダ在住の高橋文(あや)氏をお招きして語っていただきます。著書に『太平洋を渡った杉原ビザ』、『命のビザで旅した子どもたち』(いずれも岐阜新聞社刊)があります。これまで書いていない話や、珍しい写真も会場で紹介されます。ぜひご参加ください。

(オンライン参加や録画公開の予定はありません)

日時:2024年5月25日(土)
午後2時~4時
あすてっぶKOBЕ セミナー室4

男女共同参画センター 神戸市中央区橋通 3-4-3 TEL 078-361-6977
JR 神戸駅徒歩 7 分、地下鉄大倉山駅徒歩 3 分、高速神戸駅徒歩 3 分

●参加無料・予約不要 お問い合わせは下記まで。



主催:神戸ユダヤ難民研究会

神戸市中央区中町通 2-2-18 平戸ビル 4F SKK内
電話 078-341-7501 info@kjrst.org

ユダヤ難民への支援活動を行った人々やその子孫・関係者が中心になって設立された団体です。この歴史に関心を寄せる人々を、難民ゆかりの場所にご案内する活動を行っています。

(今までの主な活動実績)2018年:イスラエル人と敦賀ムゼウム館長を案内し設立準備セミナー開催、2019年:ヤッド・バシム関係者を案内しセミナー開催、カウナスのリトアニア人案内、2022年:難民の孫一家を案内、2023年:95歳難民本人と家族を案内、2024年:難民の子孫2組を案内、カウナスのリトアニア人17人の団体を案内、ほか日本人やユダヤ人を多数ご案内しました。



知っておきたい基礎知識 「杉原ビザ」と神戸

追い詰められたユダヤ人

1939年9月、ドイツはポーランドに侵攻し、イギリスとフランスがドイツに宣戦を布告して、第二次世界大戦が始まりました。迫害を恐れたポーランドのユダヤ人たちの多くは隣国リトアニアに逃れますが、そこにも危険が迫っていました。シベリア経由で日本に逃れる道は残されていましたが、そのためには日本の通過ビザが必要です。しかし、通過ビザ申請のためには最終行先国のビザが必要でした。ところが、当時の世界の大半の国々はユダヤ難民の受入に消極的で、ビザの取得は非常に困難だったのです。

彼らを助けた2人の外交官

彼らを助けたのが、オランダ亡命政府の非常勤領事ヤン・ズワルテンダイクでした。彼は、カリブ海のオランダ領キュラソー島への入国書類、いわゆる「キュラソー・ビザ」を発給しました。それは形式上は整っているものの、実際には効力のないものでしたが、難民たちはそれを持ってリトアニアのカウナス市にあった日本領事館を訪れます。

当時、領事代理として着任していた杉原千畝は、キュラソー・ビザが効力のないものだを知りつつ、彼らを助けるために1940年7～8月にかけて日本の通過ビザ約2千枚を発給します。これが「杉原ビザ」、あるいは「命のビザ」などと呼ばれるもので、多くのユダヤ人の命を救うことになりました。

神戸に来たユダヤ人たち

そのビザを持ったユダヤ難民たちは、1940年秋から1941年春頃にかけてシベリア経由で日本にやって来ます。その旅路には多くの困難がありましたが、様々な人々や組織が彼らを助けてくれました。

敦賀港には彼らの到着を記念する博物館があります。彼らの大半は敦賀から鉄道で神戸に向かい

ました。神戸にはすでに東欧系ユダヤ人（アシュケナジ）の協会（JEWCOM）があったからです。神戸に以前から住んでいた東欧系ユダヤ人たちは、米国のユダヤ人救援団体JDC（略称JOINT）の支援で、困窮する難民たちの生活を支えたのでした。

難民の二つの波

神戸に来たユダヤ難民には二つの波がありました。第一波は1940年の夏頃から到着したドイツ系の人々で、彼らは最終行先国のビザを持った裕福な人々が多く、数週間で日本を旅立って行きます。その後に来た第二波の多くが、杉原ビザの所持者でした。彼らは受入国が見つからず、何ヶ月も神戸で過ごします。しかし、第二派の人々がみな困窮していた訳ではありません。日本各地への旅行を楽しんでいた人々もいました。

1941年7月、日本が仏領インドシナ南部に進駐すると、日米関係は悪化し、米国から日本への送金が不可能になりました。残っていた約千人の難民たちは上海へと移送され、既に避難していた約2万人のユダヤ人と合流します。1941年12月の開戦から終戦後の1945年9月まで、彼らは上海でJDCの支援を受けて生きることができました。

参考:神戸とユダヤ人の歴史

明治維新直前の1868年に神戸港が開港して以来、神戸には多くのユダヤ系貿易商が住んでいました。彼らの多くは中東系（セファラディ）でしたが、昭和初期には東欧系のユダヤ人も神戸に移住し、1937年に独自の組織を結成します。その3年後、彼らは東欧からの難民の世話をすることになりました。定住ユダヤ人と1940-1941年に神戸に来た難民は別の人々であり、難民のうち、そのまま神戸に定住した人はいないと見られています。